

＜11月16日～30日の国内外外国為替市場動向＞

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
06/11/16 (木)	東京は中国要人の発言でやや円買い優勢となるも続かず。その後はむしろ失望の円売り活発化。欧米は円安というよりドル高。レベルは低いがFF連銀指数が3ヶ月ぶりの上昇となったことが好感された。	・日銀が現行の金融政策維持決定 ・9月の景気先行指数改定値18.2 ・10月の米CPIは▲0.5%、鉱工業生産0.2%、9月の対米証券投資651億ドルの買い越し、11月のFF連銀景気指数5.1	・中国人民銀副総裁「我々は長年にわたり外準のなかで円を保有」 ・日銀総裁「追加利上げ、如何なるタイミングも排除しない」 ・藤井財務次官「G20出為替が議論されるとは聞いていない」	117.90 118.35 117.75 118.20	151.19 151.48 151.10 151.26	寄付 安値 高値 終値
06/11/17 (金)	東京は118円台前半を中心とした揉み合い。新規材料にも乏しく手控えムードが強かった。欧米は米住宅指標の悪化でドル安進む。またUAE総裁発言を受けてかユーロが堅調裡。円は蚊帳の外。	・ヘッジファンドが商品相場で巨額損失の噂 ・10月の米住宅着工件数148.6万件、同建設許可153.5万件	・UAE中銀総裁「外準の分散先として円には魅力がない」「ユーロは10年以内に基軸通貨になるだろう」 ・ハルデモスECB副総裁「シナリオが確認されれば利上げが必要」	118.25 118.47 117.51 117.77	151.28 151.30 150.81 151.08	寄付 安値 高値 終値
06/11/20 (月)	東京は株価が300円を超える大幅安になったこともあり円が円えない。ユーロ/円は151円台へ。欧米は円安値圏で一進一退。円買いのニュースに反応鈍い。一方M&Aの報道からポンドが対ドルで小高い。	・米ナスダックがロンドン証取に買収提案 ・10月の米景気先行指数0.2% ・日経新聞早刷り「日本国債保有、外国人が5%越す」(21日付)	・渡辺財務官「国内には一段と円安になる要因がない」 ・米財務長官「中国に関しては長期戦略的な対応必要」	117.88 118.20 117.79 118.04	151.13 151.68 151.13 151.27	寄付 安値 高値 終値
06/11/21 (火)	東京はインジ脱却できず。武藤発言などを受けて一時円買いも見られたが続かず。欧米はドル独歩安の様相。米雇用統計悪化の噂や利上げ休止継続見通しなどが嫌気されていた。	・日銀政策決定会合の議事録公開 ・米公定歩合議事録で金利据え置き支持の連銀が12地区中11あること明らかに ・次回米雇用統計が悪化するとの噂	・武藤日銀副総裁「為替市場の円キャリー取引などに留意」 ・ECB総裁「中国に関し徹底的に討議し、為替柔軟化についてG7の見解を再確認」	118.08 118.26 117.74 117.92	151.33 151.55 151.14 151.46	寄付 安値 高値 終値
06/11/22 (水)	東京は前日の流れもありドルが円えない。またクロスでの円買いも散見されドル/円は終始右方向。欧米は米景気減速懸念が強まったとの見方からドル売り加速。損切りを巻き込み対円では116円台へ。	・10月の貿易黒字6147億円、9月産業活動指数▲0.9% ・11月月例経済報告で景気基調判断が23ヶ月ぶり下方修正 ・11月ミシガン大消費者信頼感指数確報値92.1	・ルクセンブルグ首相「最近数ヶ月の円下落は荒っぽすぎる」	117.88 117.91 116.36 116.74	151.38 151.45 150.66 151.10	寄付 安値 高値 終値
06/11/23 (木)	東京休場のアジアタイムはほとんど動意なし。ドル/円だけでなく主要通貨はいずれも閑散小動き。欧州市場は当初はユーロの買戻しから始まった動きが途中から円キャリーの巻き戻しへと変化。円独歩高。	・日米市場が休場 ・第3四半期独GDP確定値0.6%、11月の独IFO景況指数106.8	・ネルフIFOエコノミスト「1.35ドル以上のユーロ高は独輸出業者に打撃を与える」	116.79 116.82 116.03 116.30	151.10 151.13 150.37 150.54	寄付 安値 高値 終値
06/11/24 (金)	東京は日本株安が円の足枷となったものの、それでも売られず。そうした意味では円底堅い。欧米はドル全面安。休日の谷間で参加者乏しいなか中国人民銀副総裁発言などもありドル独歩安。	・第3四半期英GDP改定値0.7%	・呉中国人民銀副総裁「アジア中銀のドル資産の価格下落リスクが拡大している」	116.29 116.49 115.58 115.80	150.61 151.75 150.57 151.64	寄付 安値 高値 終値
06/11/27 (月)	東京は早朝こそ円買いムードながら、その後は一貫して円安。中国筋の発言なども円の失望売りを誘う。欧米は仏経財相がドル安警戒発言を発したことで一時ドルの買い戻し優勢に。しかし流れは続かず反転。		・中国国家外為管理局高官「外準をドル資産以外に分散することは市場の反応を考えると難しい」 ・ルクセンブルグ首相「現在のユーロ相場を過度に懸念せず」	115.52 116.40 115.50 116.09	151.98 152.49 151.86 152.47	寄付 安値 高値 終値
06/11/28 (火)	東京は福井総裁によるやや効派の発言から一時円買いも。ただ個人投資家などの円売りに上値阻まれる。欧米はユーロ高を容認するかのような要人の発言相次ぎユーロ続伸。一方で経済指標の悪化したドル円えず。	・第3四半期南アGDP4.5% ・10月の米耐久財受注▲8.3%、同中古住宅販売624万戸、11月の米消費者信頼感指数102.9、同リッチモンド連銀製造業景気指数7	・福井日銀総裁「金利調整は遅すぎず、早すぎず」 ・ロシア中銀幹部「外準のユーロシフトは完了した」 ・FF連銀総裁「ドルの下落はインフレに大きな影響ない」	116.12 116.41 115.89 116.15	152.49 153.35 152.33 153.32	寄付 安値 高値 終値
06/11/29 (水)	東京は発表された鉱工業生産が「ジティブサプライズ」となり円買い優勢。クロスを含めて円の買戻し進む。欧米は米経済指標などを巡り右往左往。米住宅指標悪化でドル売り進むも地区連銀報告でドル買い戻し。	・10月の鉱工業生産1.6% ・韓国中銀が米ドル買い介入を実施 ・米地区連銀報告「米経済は引き続き緩やかな拡大を示した」 ・第3四半期米GDP改定値1.8%、10月新築住宅販売100.4万戸	・尾身財務相「最近の為替水準についてコメントしない」 ・トビルソン仏首相「最近のユーロ高が競争力を圧迫している」 ・アルムニア欧州委員「ユーロの水準に警戒を抱く理由はない」	116.07 116.47 115.58 116.40	153.22 153.24 152.54 153.10	寄付 安値 高値 終値
06/11/30 (木)	東京はFT観測記事、野田委員の発言で円買い優勢。ドル/円は一時115円台も。欧米は発表されたシカゴPMIが03年4月以来の悪数字となったことを受けてドル売り進む。	・英FT紙に日銀の利上げ観測記事 ・11月の独失業率10.2%、同失業者数▲8.6万人 ・10月の米個人所得0.4%、同個人支出0.2%、同コアPCE価格指数0.2%、11月のシカゴ購買部協会指数49.9	・野田日銀審議委員「市場の12月利上げ観測は素直に受け止めた」 ・ブルトン仏財務相「ユーロ/ドルに警戒必要、ECBは耳を傾けるべき」	116.43 116.56 115.51 115.82	153.07 153.45 152.92 153.37	寄付 安値 高値 終値

*製作・著作「FXニュースレター」

URL; <http://www.fx-newsletter.com/>